



富山市の公共施設のオープン リノベーション推進事業について

令和元年11月27日（水）

富山市



富山市を取り巻く課題 (平成17年4月に1市4町2村で市町村合併)

① 人口減少と超高齢社会

⑤ CO2排出量の増大

② 過度な自動車依存による
公共交通の衰退

⑥ 市町村合併による
類似公共施設

③ 中心市街地の魅力喪失

⑦ 社会資本の
適切な維持管理

④ 割高な都市管理の
行政コスト

⑧ 平均寿命と健康寿命の
乖離

富山市のまちづくりの基本方針 ～コンパクトなまちづくり～

鉄軌道をはじめとする公共交通を活性化させ、その沿線に居住、商業、業務、文化等の都市の諸機能を集積させることにより、
公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりを実現

<概念図>

富山市が目指すお団子と串の都市構造

串 : 一定水準以上のサービスレベルの公共交通

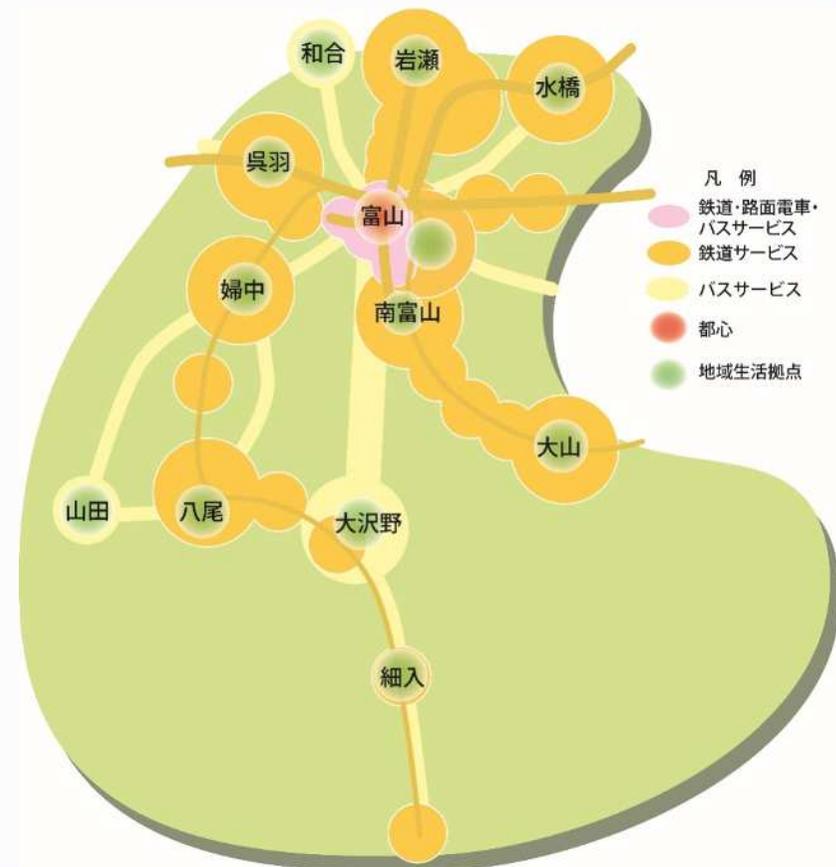
お団子 : 串で結ばれた徒歩圏

<実現するための3本柱>

① 公共交通の活性化

② 公共交通沿線地区への居住推進

③ 中心市街地の活性化



LRTが走るまちの風景



CENTRAM

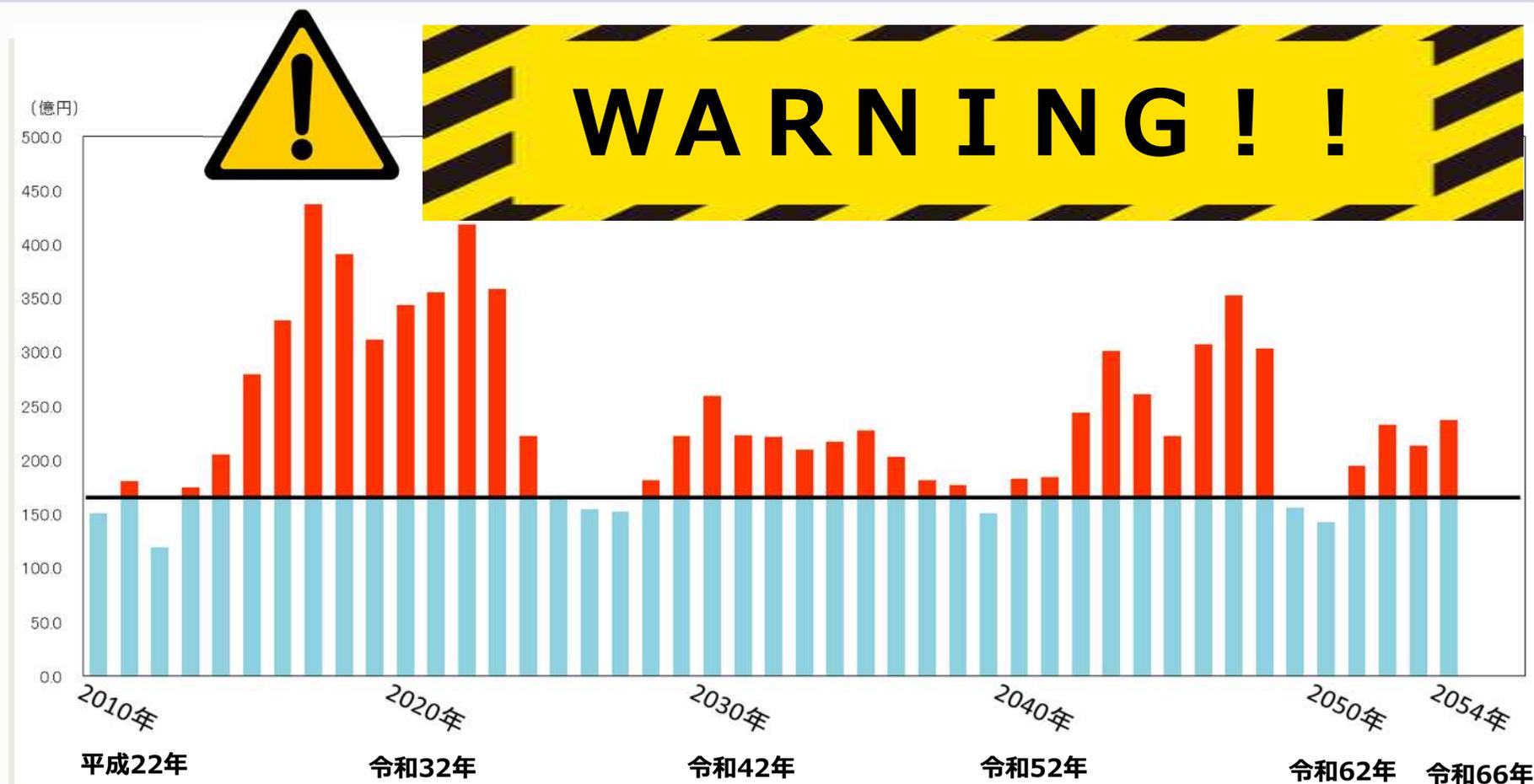
ソーシャルキャピタルあふれる持続可能な付加価値創造都市を目指して

COMPACT CITY TOYAMA



課題 1 : 市町村合併による 類似公共施設

公共施設の将来更新費用推計

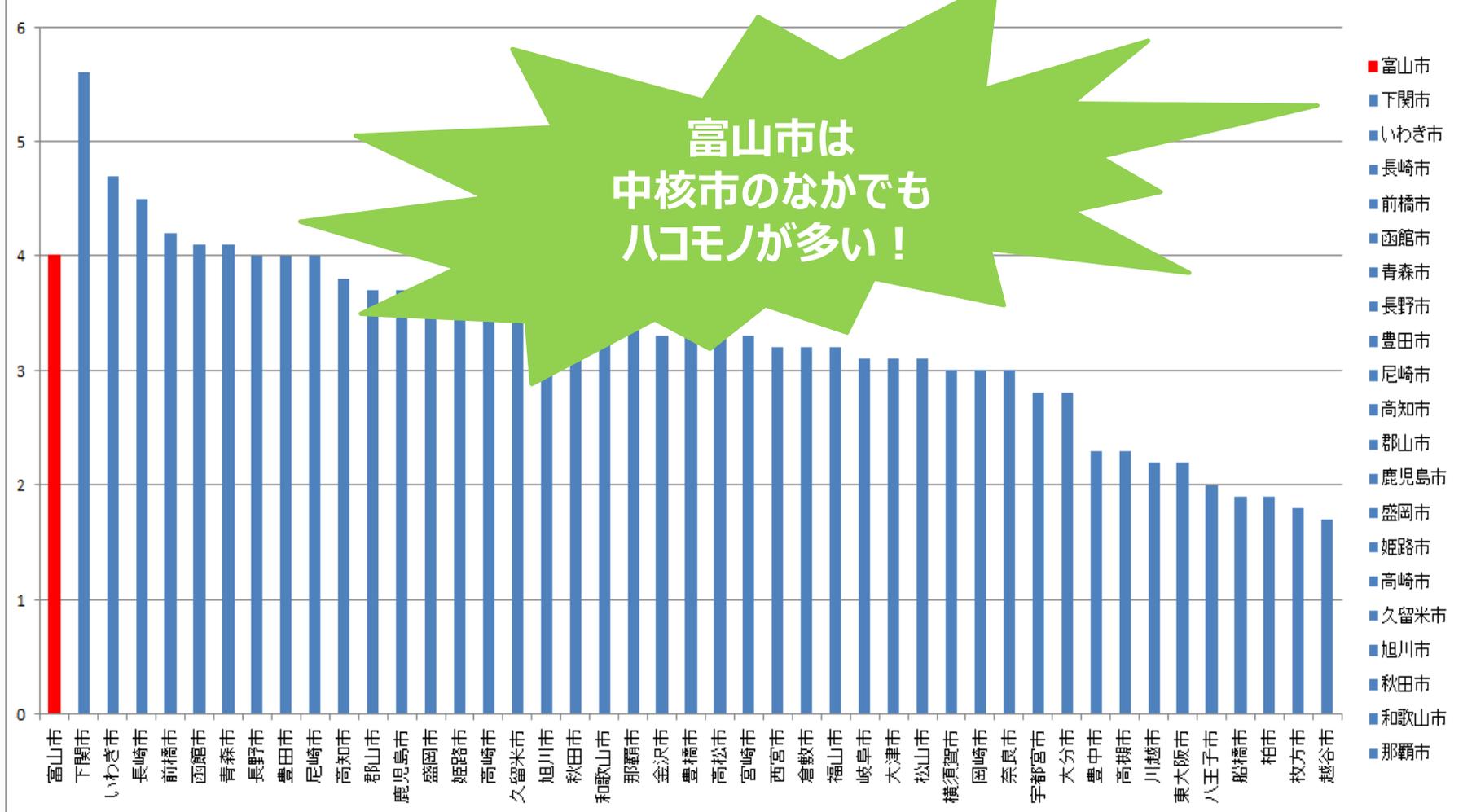


今後40年間で約3,300億円、年平均で82.5億円の不足！

⇒ ハコモノに頼らない新たなパブリックサービスの提供の仕組みが必要

他都市との比較

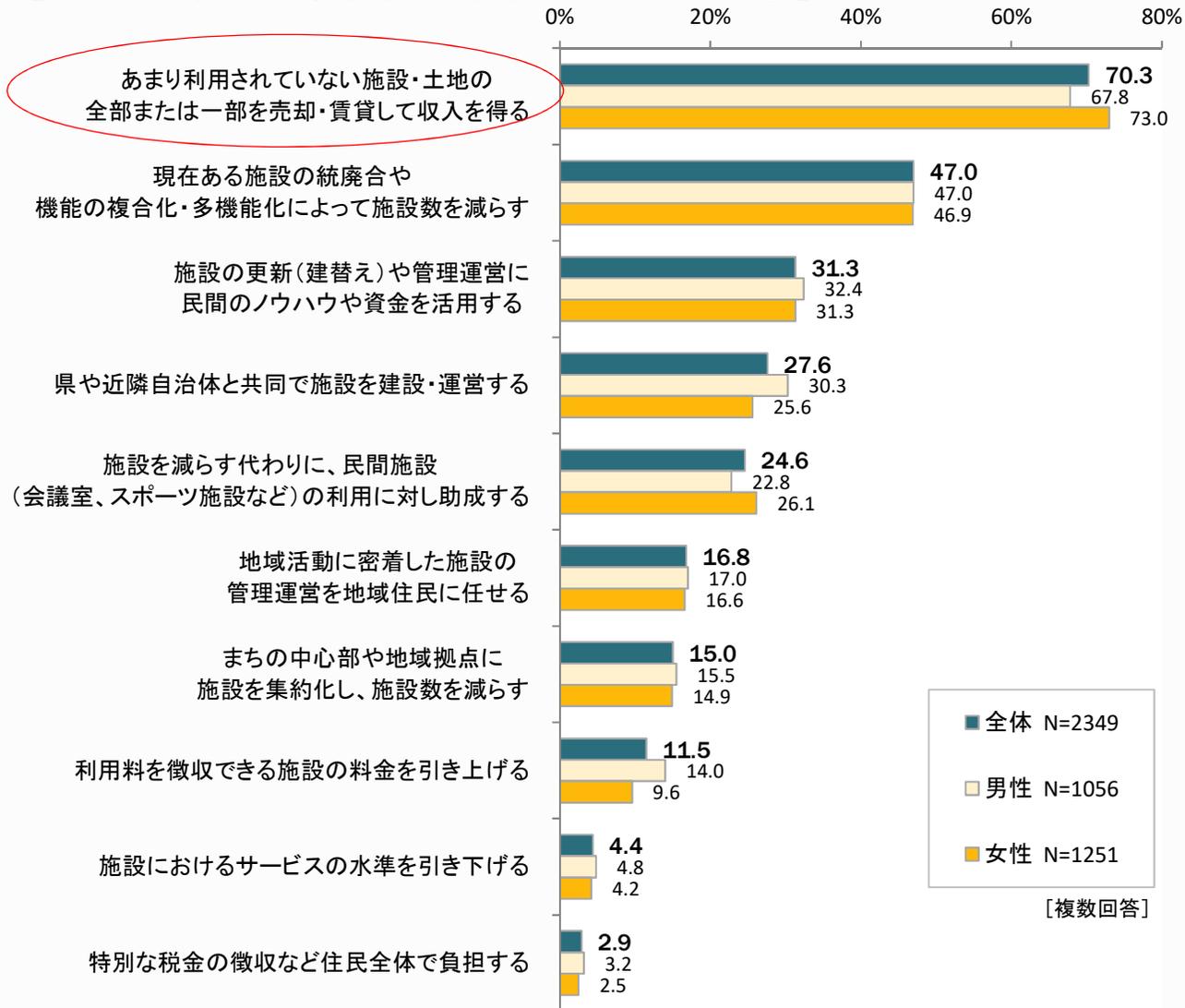
住民一人当たり公有財産延床面積(m²/人)



中核市で比較すると全国7位

住民ニーズ（市民意識調査）

【公共施設の更新費用の負担を減らす方策】





課題 2 : 平均寿命と 健康寿命の乖離

歩くライフスタイル推進の背景（公共交通の視点）

- ▶ 公共交通活性化による利用者数の増加
- ▶ 令和元年度末の路面電車南北接続という大きな節目を控え、これまで進めてきた公共交通ネットワークを活かした新たなまちづくりステージへ

●公共交通活性化及び整備に関する事業年表

年月	事業名称
平成18年 4月	富山ライトレール開業
平成18年10月	J R 高山本線活性化社会実験開始
平成21年12月	市内電車環状線開業
平成23年 3月	J R 高山本線活性化事業開始
平成23年 9月	富山地鉄不二越・上滝線活性化事業開始
平成27年 3月	新幹線高架下への市内電車乗り入れ
令和 2年 3月	路面電車南北接続事業の事業完了



●公共交通の利用者数の推移



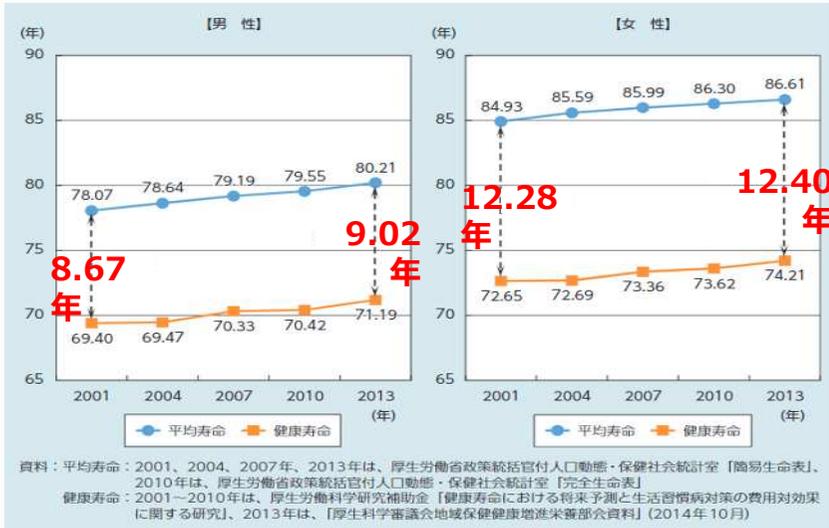
出典：富山市統計書

※ J R に関しては、平成 2 7 年 3 月 1 4 日以降のあいの風とやま鉄道利用者数を含む

歩くライフスタイル推進の背景（健康面の視点）

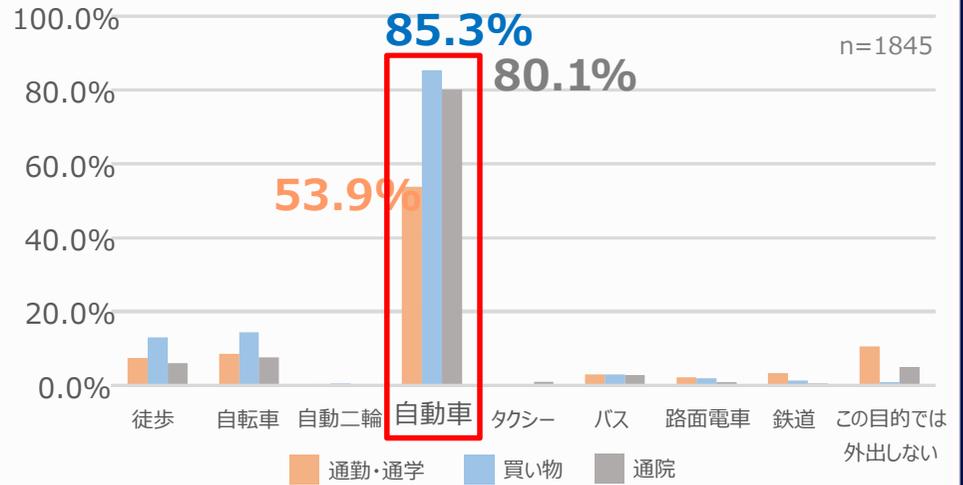
- ・平均寿命と健康寿命の乖離が進行➢0.1～0.3年増加（2001年－2013年）
- ・商業施設や病院等の利用の際に、市民の8割が移動手段として車を利用
- ・普段の歩く意識が低く、過去に運動習慣のない市民は、歩行が困難になる傾向

●「平均寿命」と「健康寿命」の推移（全国）

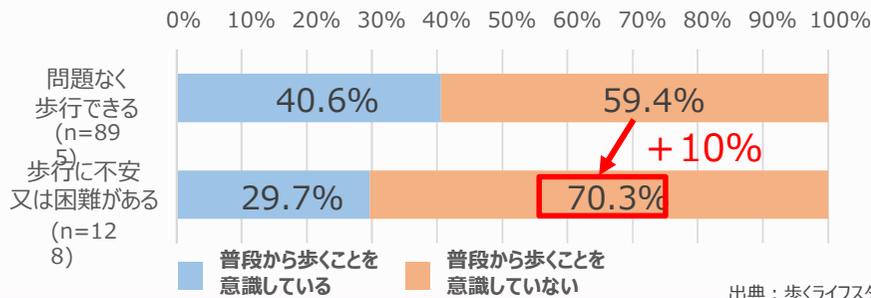


出典：平成28年版厚生労働白書－人口高齢化を乗り越える社会モデルを考える－

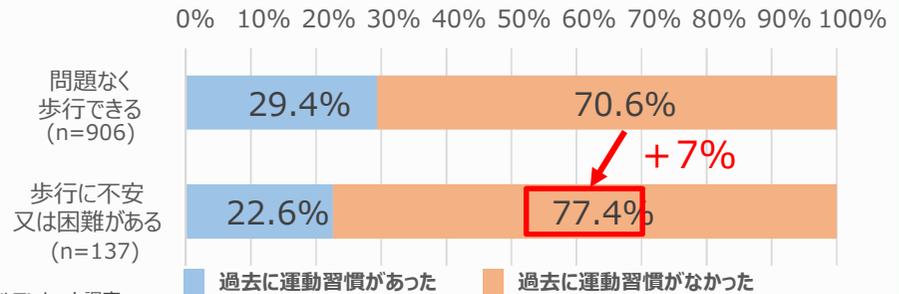
●市民の外出目的別の移動手段



●市民の歩行の状況と歩くことの意識（50歳以上）



●市民の歩行の状況と過去の運動習慣（50歳以上）



「歩くこと」による効果

■ひとへの効果：健康寿命の延伸、 社会保障費の削減効果

- 1日の歩行時間が長くなると医療費が下がる
 - 1時間以上/日の歩行で
2,800円～5,000円/月の減

● 1日の歩行時間と医療費の関係

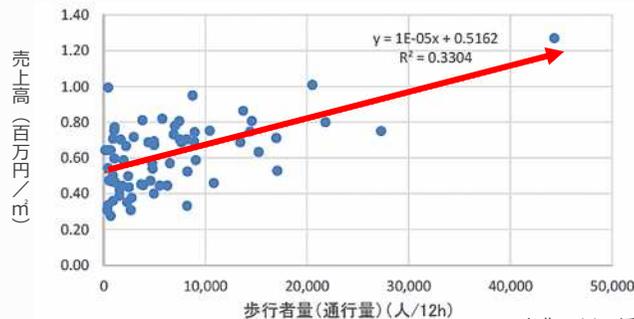


出典：大崎国保コホート研究 9 年間追跡結果

■まちへの効果：地域経済やまちの賑わいへの波及、公共交通の利用促進

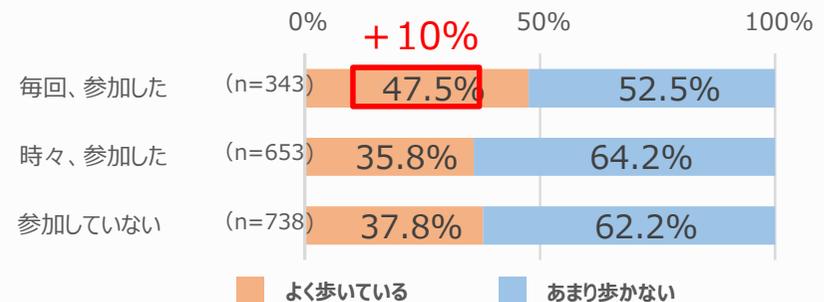
- 歩行者が多いまちなかでは店舗の売上げが高い ➢ 地域経済の活性化
- よく歩く市民は地域活動に参加する傾向 ➢ 地域コミュニティの活性化
- 公共交通を選択する市民や利用機会が増加 ➢ 持続可能な公共交通の実現

● 各都市の中心市街地の歩行量（通行量）と小売業売上高



出典：まちの活性化を測る歩行者量調査のガイドライン/国土交通省

● 市民の地域活動への参加頻度と日常的な歩行の関係（全年齢）



出典：歩くライフスタイルアンケート調査



Toyama Town Trekking Site
〈オープン・リノベーション〉

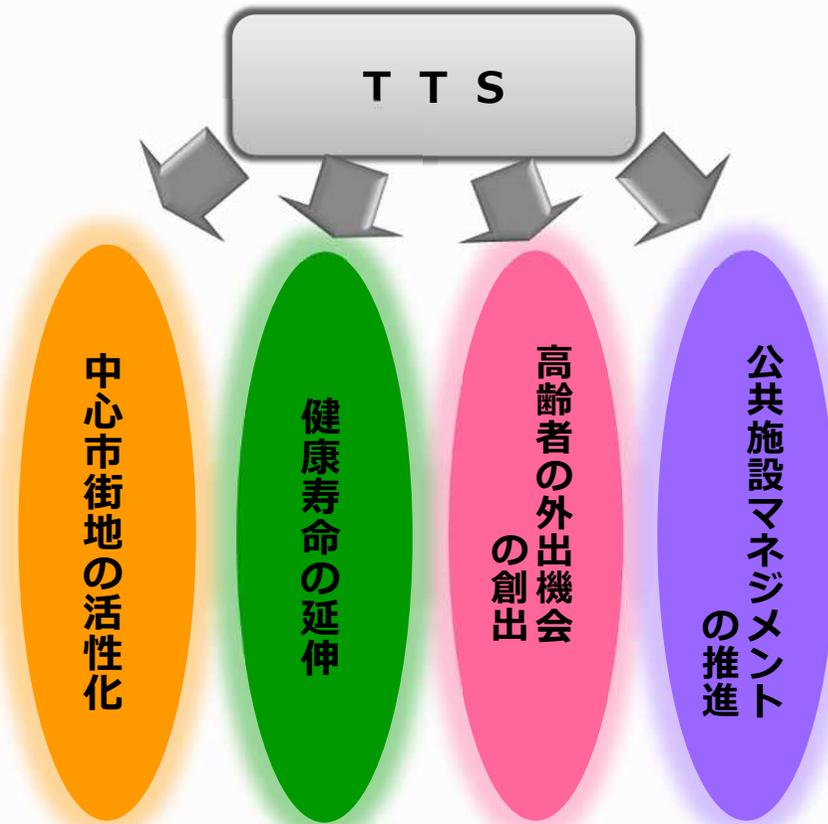
包括的な連携政策・施策による持続可能な都市の実現

限られた財源・資源の中で、各種課題に対応した持続可能な都市を実現するためには、従来の縦割りの政策・施策ではなく、包括的な連携政策・施策の展開が必要。
さらに、その効果を見える化・共有することで、多様な主体と連携し、まちづくりを推進。

一つの政策目標を、複数の施策
実施によって達成する



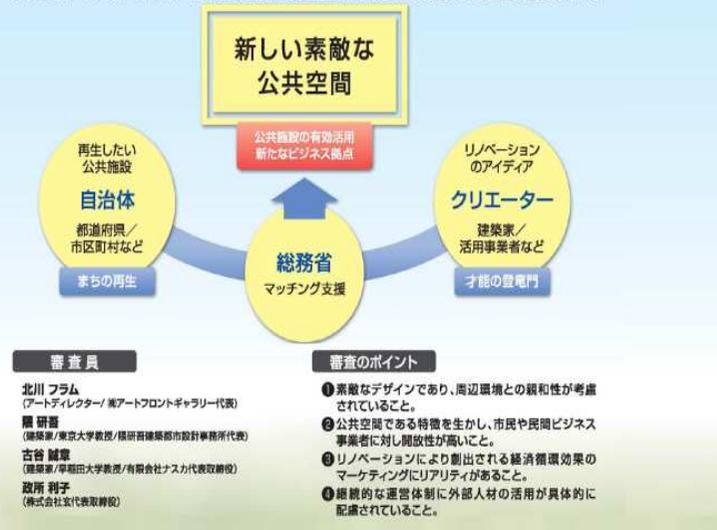
一つの施策の実施によって、
複数の政策目標に効果をもたらす



公共施設オープンリノベーションマッチングコンペティション

公共施設オープンリノベーション マッチングコンペティション

クリエイティブなアイデアと、それを求める自治体、その夢を実現する「結び」事業です。



自治体が有する公共施設を、クリエイターや建築家などのアイデアを活用して、リノベーションを行い、新しく素敵な公共空間に生まれ変わらせることによって、民間事業者のビジネス拠点を創出する公共施設オープンリノベーションを推進するもの。



[平成28年度受賞団体] 富山市総合体育館のリノベーションのアイデア「Toyama Town Trekking Site」が、優秀作品として採択

提案団体	提案事業者	施設名	施設分類	作品名
千葉県 いすみ市	いすみ市地域おこし協力隊 松永 康一朗	いすみ市サンライズガーデン	観光・レクリエーション施設	想いを溜めるプールがある市民のマッチングスペース
新潟県 十日町市	一級建築士事務所 山本想太郎設計アトリエ	(旧) 十日町市立清津峡小学校	学校	越後妻有倉庫ミュージアム
富山県 富山市	株式会社乃村工務社	富山市総合体育館	体育館	Toyama Town Trekking Site
京都府 与謝野町	一般社団法人ブレイス	岩滝母と子どものセンター	集会所	yosano kitchen labo

富山市総合体育館 (地下1階・地上3階、第1アリーナ/4,650席・第2アリーナ/200席)



富山市総合体育館外観



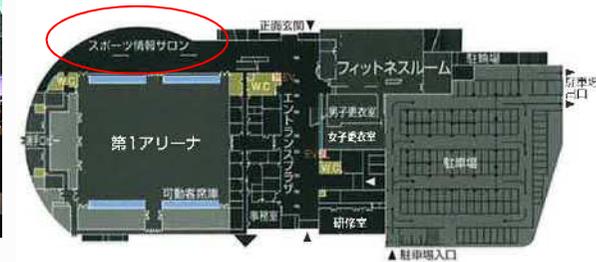
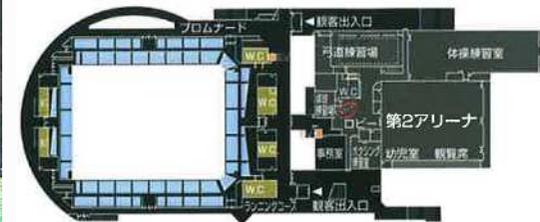
リノベーション対象エリア
(スポーツ情報サロン)



Bリーグのオールスター戦 (2019.1.19)



ファンタジー・オン・アイス (2014.7)



ソーシャルキャピタルあふれる持続可能な付加価値創造都市を目指して

COMPACT CITY TOYAMA

リノベーションのコンセプト

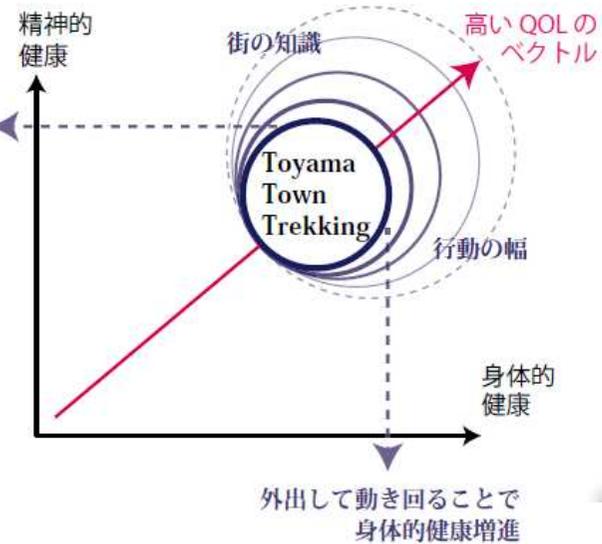
— 閉じた体育館から、外につながる体育館へ —

トヤマ タウン トレッキング

※ Toyama Town Trekking の拠点整備により富山市民の QOL を高め、まちなかの価値も高める！

富山市総合体育館は、環水公園という好ロケーションにも恵まれ、市民の利用が多い施設です。その体育館の一角にあるデッドスペースをリノベーションで甦らせます。本提案では、「公園に隣接する体育館」という施設特性、「コンパクトに魅力が凝縮された街」という環境特性、「市民と街の活力増進」という行政目標を踏まえ、街をフィールドとしたトレッキング活動 - Toyama Town Trekking - の拠点機能を体育館に設けることで市民の QOL 向上をはかります。この拠点を中心に、まちなかに波及する輪郭の無い新しいカタチのパブリックサービスを目指します。

外出し地元の
魅力に出会い、
交流することで、
精神的健康増進



公園のメインスペース側に設置する扉は、公園に訪れた人たちにとって、もう一歩足を延ばすきっかけになります。そこには、公園内にはない、新たなサービスがあり、公園の機能についても向上させます。

タウントレッキング



〈Toyama Town Trekking とは〉

歩けばみつける、街の楽しみは日々芽吹いているのだから
富山市の魅力を探して回るのが、Toyama Town Trekking

『Toyama Town Trekking』とは、富山市の特徴を活かすために考案された、これまでにない新しい街との関わり方です。

都市機能がコンパクトに集積されながらも、四季折々の自然の変化が街中にあふれる富山市内(まちなか)は、魅力満載のフィールドといえます。その「まちなか」をトレッキングのフィールドと捉え、歩みで富山市の魅力を味わいつくすのが、『Toyama Town Trekking』です。

タウントレッキング

- ・街を楽しみながら歩き・走ることが目的
- ・面白いものなど、街の魅力との出会いが成果物
- ・精神的充足感、身体的充足感ともに得られる
- ・街を知ること、地域との交流がはじまる



ウォーキング・ランニング

- ・運動そのもの、体を動かすことが目的
- ・消費カロリーや走行距離が成果物
- ・身体的充足感が強く得られる

環水公園が目前に広がる好ロケーション。そこに、洗練された空間・魅力的なコンテンツで構成された新アクティビティ拠点『Toyama Town Trekking Site』を整備することで、『健康であること・文化的であること』に関心が高い**若年シニア層を中心に、世代を超えた多くの人**が利用することを想定

TTS

◇事業費 **100,000千円**（国：50,000千円 市：50,000千円）

内訳【国：ハード事業は公共施設オープンバージョンマッチングコンペティションの交付金（30,000千円）を活用、ソフト事業（システム）は地域創生交付金（20,000千円）を活用】

